

インキュベーション研究 (IS) 公募

※IS: Incubation Study

地球研プロジェクトの種別

個別連携
プロジェクト

研究者コミュニティから地球環境問題の解決に資する独自の領域融合研究のアイデアを広く公募する

未来設計
プロジェクト

地球研の基幹研究ハブ部門が、研究成果の設計科学としての統合を目指して構想・育成する

機関連携
プロジェクト

地球研が求める要件にしたがって大学・研究機関との協定のもとで共同研究として公募・実施する

地球研のミッション

人類が直面する地球環境問題を、(中略)問題の本質である「人間と自然の相互作用環」の解明(認識科学的アプローチ)にあたるとともに、真に豊かな人間社会の実現をめざす「未来可能性」の探求(設計科学的アプローチ)を試みる。

この試みには、既存の学問分野の枠組みを超えた新たな総合的視点に立つ「地球環境学」の構築が不可欠である。

総合地球環境学研究所は、大学共同利用機関として、地球環境問題に取り組む国内外の大学その他の研究機関等と連携しつつ、総合的な研究プロジェクトを推進しながらこの使命を達成する。

「総合地球環境学研究所における研究活動の基本方針」抜粋

領域プログラム
認識科学的アプローチ
個別連携プロジェクト
(個別の研究者のアイデアを基盤)
機関連携プロジェクト
(研究機関の強みを活かす)



統合知の構築に向け
5つのプログラムによ
研究領域の確定

未来設計イニシアティブ

設計科学的アプローチ

未来設計プロジェクト

(地球研が未来可能な社会のあり方の設計に向けて形成)

風水土 イニシアティブ

物質圏を人間の生存と社会文化の存在基盤ととらえ、過去・現在・未来を往還した、地域と地球の統合理解

地球環境の変化に柔軟に対応する社会を設計

山野河海 イニシアティブ

生物圏から提供される生態系サービスと、生態系を持続的に利用してきた技術・知恵・文化の統合理解

環境負荷が低く豊かな生活を実現するのに必要なしくみを提言

生存知 イニシアティブ

生産・食料消費・医療のあり方に重きを置き、精神的価値観に基づく人間活動と環境の関係の統合理解

多様な文化や環境のもとでの人間のよりよい生き方を提言

総合地球環境学

統合知

地球地域学

循環

多様性

競争

文明環境史

第I期の
領域プログラム

物質圏

IT圏

出社区

山陰丘陵

精神圏

生物圏

第II期の未来設計イニシアティブ

インキュベーション研究とは

地球環境問題の解決に向けた総合的な研究における新たな研究シーズを発掘することを目的として、地球研及び所外の研究者が共同して行う研究

研究推進の過程で個別連携FSあるいは機関連携FSのどちらにふさわしいかについて、地球研と申請者及び申請者の所属機関との協議に基づいて判断し、さらに連携機関との調整を踏まえたうえで、最終的に個別連携プロジェクトあるいは機関連携プロジェクトへの進展を目標とします

※FS:Feasibility Study

個別連携FS及び個別連携プロジェクトの要件

個別連携FSから個別連携プロジェクトに進展した場合には、FS責任者がプロジェクトリーダーを務める

個別連携FSを終了し、個別連携プロジェクトへの移行審査で採択された場合、そのプロジェクトリーダーは地球研の専任教員になる
(採用の際には、地球研と研究代表者の所属機関の間で十分に協議を行う)

機関連携FS及び機関連携プロジェクトの要件

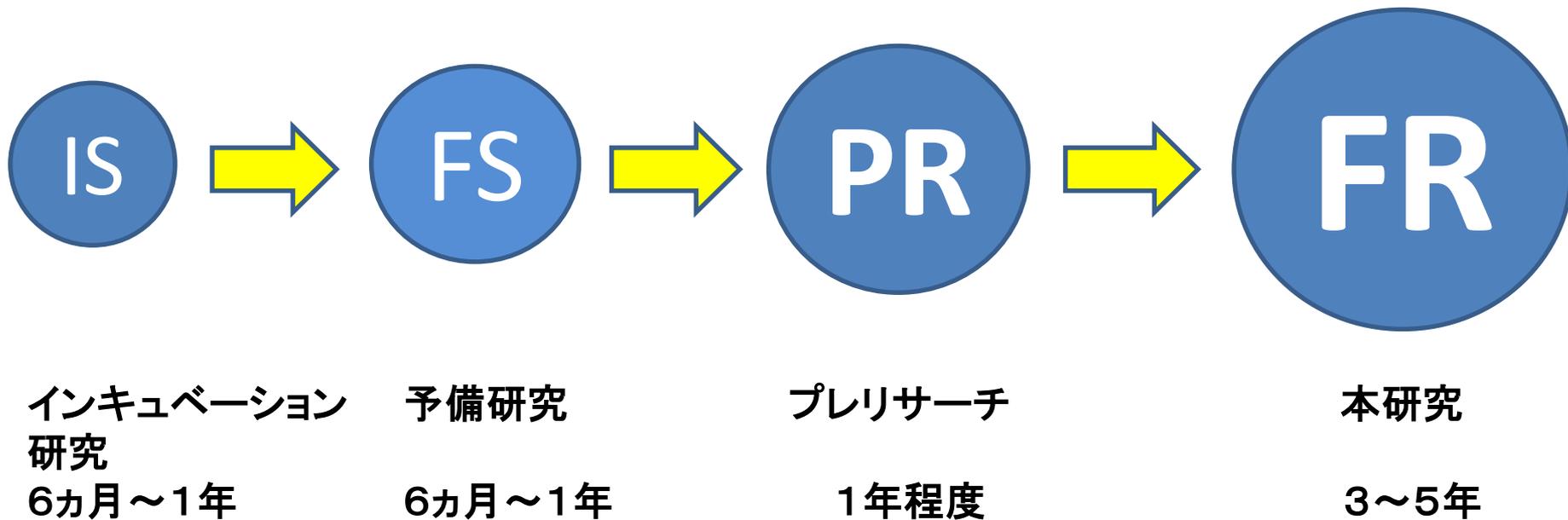
機関連携FSから機関連携プロジェクトに進展した場合には、FS責任者がプロジェクトリーダーまたは共同リーダーを務める

地球研との連携協定を締結している機関は、FS期間中に地球研との協議のもとに、機関連携プロジェクトの実施に必要な覚書等の準備をしていただく(地球研との連携協定をしていない機関とは、この期間に新たに協定締結準備)

機関連携FSを終了し、機関連携プロジェクトへの移行審査で採択された場合、そのプロジェクトリーダーは所属機関から地球研への出向あるいは派遣、または地球研の専任教員になる

(身分上の扱いと地球研におけるエフォート率等は個別に相談。また、これらについては連携協定ないし覚書等に明記)

地球研プロジェクト形成プロセス (個別連携プロジェクト、機関連携プロジェクト)



※IS:Incubation Study , PR:Pre-Research , FR :Full Research

インキュベーション研究 (IS) 形成のプロセス

応募提案を受けて公開ヒアリングと所内審査を実施

6ヶ月から1年間ISを実施

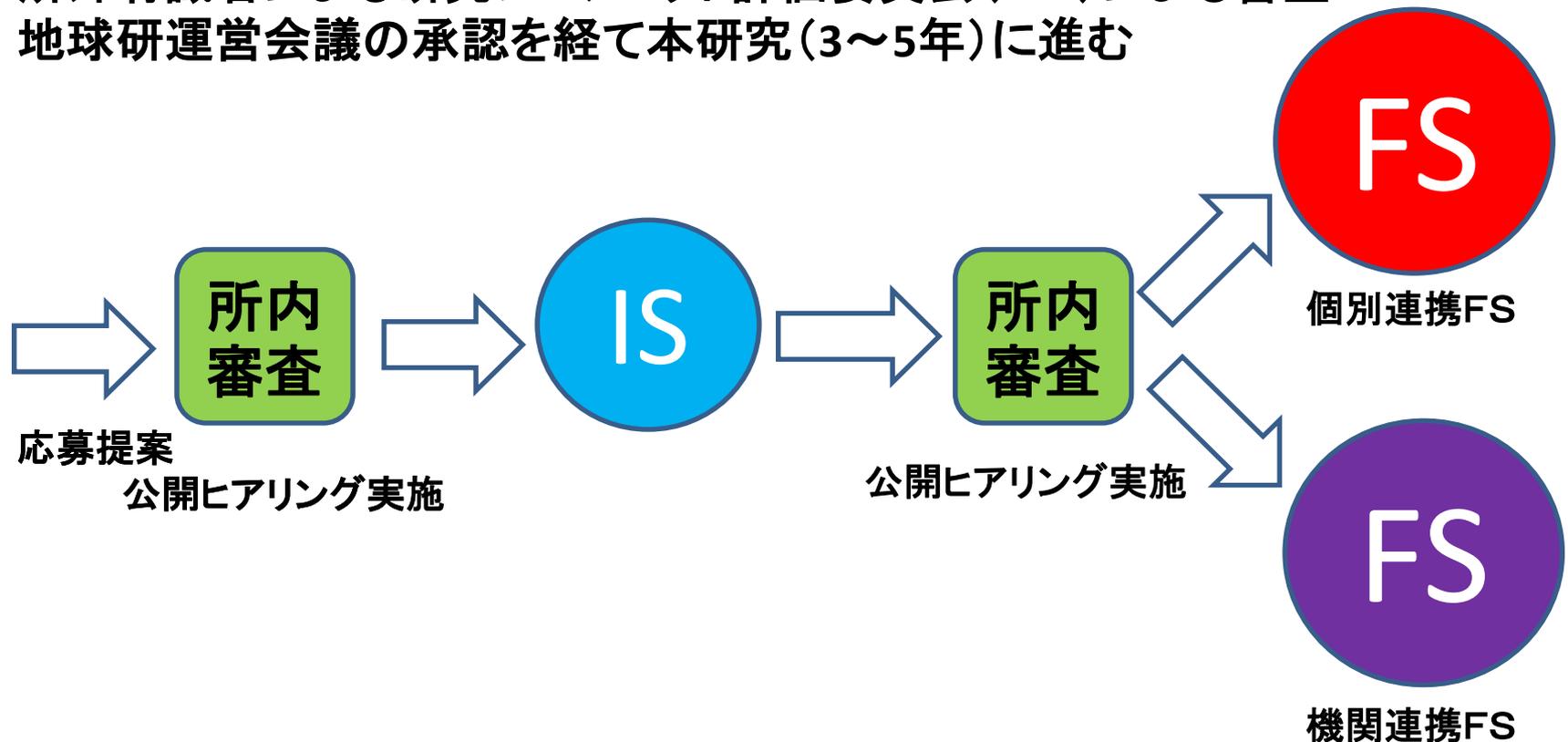
公開ヒアリングと所内審査を実施

6ヶ月から1年間FSを実施

公開ヒアリングと所内審査を実施

所外有識者による研究プロジェクト評価委員会 (PEC) による審査

地球研運営会議の承認を経て本研究 (3~5年) に進む



全てのプロジェクトに期待すること

すべての地球研プロジェクトは以下の項目を満たすことが求められる(到達目標)

(4) 解決すべき地球環境問題の明確化

研究プロジェクトが解決を目指す地球環境問題が独自の視点から明確に定義され、その解決が持続可能な社会の構築と人類の福利の向上に資するものであることが明示されていること。

(5) 課題解決に駆動された学際的な統合

前項で明示された地球環境問題の解決に資する学際研究であり、そのために必要な学問分野を有機的に統合するものあること。

全てのプロジェクトに期待すること

(6) 社会的インパクト

研究成果が単に学術コミュニティにおけるインパクトにととまらず、地球環境問題の解決を促す可能性を持つこと。

(7) 国際的な共同研究の推進

当該の地球環境問題の解決にかかわる独創性と高い学術性を有し、国際的な研究をリードできること。

(8) トランスディシプリナリティ

当該の地球環境問題の解決にかかわる社会の多様なステークホルダーと協働した研究設計 (co-design)、研究の推進 (co-production)、研究成果の活用 (co-delivery) のプロセスを可能な限り取り入れた研究であること。

個別連携プロジェクトに求めるもの

(1) イノベーション

総合学としての地球環境学にかかわる独創的なアイデアに基づき、地球環境問題の解決に資する学際的統合のための新しい枠組みを提案し、既存の地球環境研究に新たな視点を提供できるものであること。

(2) 新しい方法論の提案

認識科学あるいは設計科学において、地球研における地球環境学の構築に新しいアプローチと方法論を開拓するものであること。

(3) ステークホルダーとの協働

地球環境問題の解決に向けてステークホルダーとの新たな協働の可能性を開拓しうるものであること。

機関連携プロジェクトに求めるもの

(1) 連携機関の研究リソースを基盤としたイノベーション連携する研究機関(大学・研究機関等)の学部・研究科・センター・研究所等がこれまでに蓄積してきた地球環境学にかかわる独自の研究リソースを十分に活用するものであると同時に、地球研との連携、並びに関連する国内外の研究者コミュニティとの広範な協働を通じて、さらなるイノベーションが期待できること。

機関連携プロジェクトに求めるもの

(2) 地球研の研究資源の活用による新たな研究の展開
地球研のこれまでの研究プロジェクトの成果、および未来設計イニシアティブが探求してきた設計科学としての統合のアプローチを活用し、連携機関だけでは実現が困難な独創的な研究の地平を開拓するものであること。

(3) 地球研における地球環境学推進への貢献
地球研が推進する人間と自然系の相互作用のあり方の解明を基軸とする未来設計に資する地球環境学の推進に、機関連携を通じて新たな視点とアプローチをもたらし、革新的な成果を生み出す可能性を有すること。

公募後のスケジュール

(現在における予定であり、変更が生じる場合もあります。)

- ①申請書の提出 平成27年4月2日(木)17時必着(厳守)
- ②書類審査 平成27年4月7日(火)
- ③研究内容発表会 平成27年4月17日(金)
- ④研究開始 平成27年5月1日(金)
- ⑤IS報告・FS移行発表会 平成27年9月4日(金)
- ⑥研究プロジェクト発表会 平成27年11月25日(水)～27日(金)
※10月にFSに進展した場合は、FSとしての発表が必要となります。
- ⑦IS報告・FS移行発表会 平成28年3月4日(金)

個別連携・機関連携プロジェクト採択状況

申請年度	申請 件数	IS過程		FS過程		FR(PR)過程	
		採択件数	採択率	採択件数	採択率	採択件数	採択率
平成21年度 (連携)	10	8	80.0%	5	50.0%	2	20.0%
平成22年度 (連携)	7	6	85.7%	5	71.4%	1	14.3%
平成23年度 (連携)	7	5	71.4%	2	28.6%	1	14.3%
平成24年度 (連携)	14	6	42.9%	4	28.6%	1	7.1%
平成25年度 (連携)	16	11	68.8%	4	25.0%	1 (H26現在)	
平成26年度 (個別連携)	4	1	25.0%	0	0%		
平成26年度 (機関連携)	10	—	—	2	20.0%		

※採択率は、申請件数に対する採択率

研究プロジェクトは、みなさんとの協働作業を通じて作り上げ、実施していくものです。

プロジェクト形成と実施の過程を通じて、私たち地球研も学び続け、進化していきます。

みなさんのご提案をお待ちしています。